



希少野生生物の保全と森林施業の両立に向けて ～瀬尻ホソバシヤクナゲ稀少個体群保護林での取組～

天竜森林管理署 瀬尻森林事務所 弓桁侑季
関東森林管理局 計画課 砂原美咲

【ホソバシヤクナゲとは？】：ツツジ科の常緑低木で細長い葉が特徴、5月頃にピンクの花、別名エンシュウシヤクナゲ



✓ 分布域・形態・性質
静岡県西部から愛知県東部のみに分布（左図）
海拔1,000m以上の山地に分布することが多い
シヤクナゲの仲間の中では比較的**低地**に分布
日当たりと乾燥を好み、特に**光環境**を重視
尾根上部（稜線沿い）や北向き斜面に多い



✓ 背景
ホソバシヤクナゲは分布域が限られ、環境省レッドリストでは野生での絶滅の危険が増大している種（絶滅危惧Ⅱ類（VU））に指定される、保護を要する貴重な種
SDGs 目標15「陸の豊かさも守ろう」において生物多様性の保全・希少種の保護が目標に掲げられ、国有林としても積極的な取組が求められる

【課題と調査目的】

↓ H24保護林モニタリング調査の報告書より抜粋

「スギ植林下では枯損が進行し、衰退傾向にある。このまま放置すると、**林内のホソバシヤクナゲはすべて枯死する可能性が高い**」

✓ 調査の必要性

人工林施業と協調した希少種保全のあり方（具体的な施業方法など）を検討するため、本種の生態を正確に理解する必要がある

✓ 何を知ろうとしているのか

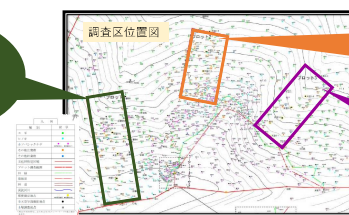
森林施業が生育環境に及ぼす変化とそれによる本種への影響について、その要因と因果関係を明らかにする

【調査方法】

✓ 調査地の設定（瀬尻国有林850は林小班）

3つの斜面地形（平行・凸型・凹型）に立地の状況に応じてベルト状の調査区を設置
生育地の環境改善に向けて、平成28年に**伐採率の異なる施業**を実施
施業による影響を把握するため、下記項目の調査を実施

プロット1
100%伐採区
平行斜面



プロット2
50%伐採区
凸型斜面

プロット3
100%伐採区
谷の凹型

✓ 調査項目

・生育状況調査

→樹長・根元径・開花状況・実生調査
枝の伸長量・葉数・分枝数

・環境調査

→植生・光環境・土壌水分
周辺森林での分布

【調査結果】

各プロットの現状

※写真：伐採から9年後の令和7年撮影

プロット1



100%伐採区
平行斜面

伐採後の相対照度
30.5%

日当たり○
下層植生:多

プロット2



50%伐採区
凸型斜面

伐採後の相対照度
7.4%

日当たり△
下層植生:無

プロット3



100%伐採区
谷の凹型

伐採後の相対照度
14.0%

日当たり○
下層植生:中

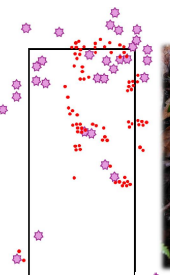
実生調査

調査開始（平成27年）の後、新たに発現した実生の個体位置を把握し、樹高・根元径を計測（調査日：2025年10月15日）

生存個体数

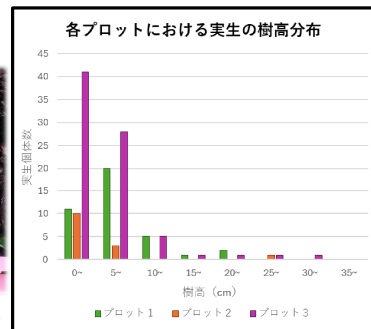
平成27年に確認されたホソバシヤクナゲについて、平成29年・令和3年・令和6年に生存個体数を調査

プロット3における実生位置図



実生

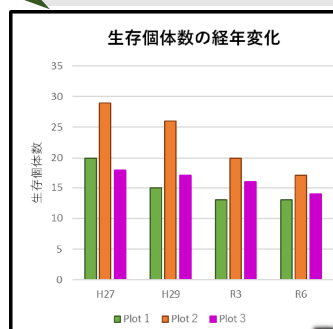
実生●は母樹★の周辺に多い！



プロット1
→実生個体数は中程度
樹高1~24cmに分布

プロット2
→実生個体数は少ない
樹高10cm未満が多数

プロット3
→実生個体数は多い
樹高1~34cmに分布
樹高が高くなるにつれて
個体数が極端に減少



プロット1
→H29以降ほぼ横ばい

プロット2
→大幅な減少傾向

プロット3
→緩やかな減少傾向

【結果まとめ】

プロット1：日当たりが良い箇所は実生が発現しており、下層植生が多い箇所は実生が発現しづらい
光環境が良いため、他種との競合に勝った個体は安定して生育できる

プロット2：光環境が悪いため、実生の発現が少なく、発現しても減退していく
定着した実生の樹高が低く、伸長成長がみられない

プロット3：沢地形のため、地表の土壌が移動しやすく、下層植生が少ない
日当たりも良く実生が発現しやすい環境だが、土壌の移動により定着しづらいため、個体は徐々に減少していく



実生調査風景

【考察】

✓ 調査結果から

低	伐採率	高	沢地形
★光環境が悪い	★光環境が改善 ★下層植生が多く他種と競合	★地表の土壌が移動しやすい	
実生が発現しにくく伸長成長がみられない =生育に不向き	実生の発生数が増加し、定着した個体は生育可能だが、下層植生が豊富な場合は実生の発生が制限される =生育良好だが下層植生対策が必要	実生の定着が困難であり、生存率が低下する =生育に不向き	

✓ 今後に向けて

- ・定着した実生について、今後の成長経過を追う
- ・伐採率の高い箇所でも生育が良好な要因の検証（光？水分？土壌関係？）
- ・生育地は尾根上部に多いが、斜面のどの部分まで生育するのか？

✓ 森林施業に生かす

★伐採率を高くした方がホソバシヤクナゲの生育に適している！
★下層植生が多い場所は下刈を実施し他種との競合を防ぐことが必要！
↓ 瀬尻ホソバシヤクナゲ保護林での施業を検討・・・
ホソバシヤクナゲが生育している地点において、
プロット1・3→下層植生が多い箇所の下刈
プロット2 →光環境を妨げている立木の伐採・雑木等の除伐

【まとめ】

本取組を通して、ホソバシヤクナゲの生育に適した環境や施業方法について、理解を深めてきた。ホソバシヤクナゲは非常に成長がゆっくりな種であるため、引き続き母樹や実生の成長経過を追っていき、森林施業と両立した希少個体群の保護を目指していく。